

# おわりに



長崎大学薬学部教授  
中嶋 幹郎

平成24年12月に組織された「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」が主体となって展開している文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」事業（平成24～28年度）も、平成28年度は5年目となり、本補助事業の最終年度となりました。本年度は、10月から本部委員会委員長に星野理事が就任され、補助事業終了後の継続に向けた活動を中心にいっそうの事業の推進を図ってきました。特に、平成27年度に文部科学省が実施した「大学間連携共同教育推進事業中間評価」において、本事業がS評価を受けたことで配分された追加予算で事業化したWEB講座「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアの基礎知識」では、無料配信する新たな授業コンテンツの制作を行い、学生の学習支援環境を強化することができました。

長崎大学では、本補助事業の成果を学部の専門教育へも活かしながら、さらに発展的に継承していけるよう連携大学や自治体・関連職能団体等との多分野ネットワークを継続していく方向です。

最後になりますが、これまで本事業のためにご指導を頂きました講師の先生方、また講義・実習にご協力頂きました関係機関の皆様方に心からお礼を申し上げますとともに、これからも本コンソーシアムの活動に対する変わらないご支援とご指導を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。



長崎県立大学看護栄養学部看護学科教授  
松本 幸子

平成24年から始まった5年間の「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」事業も平成28年が最終年度となりました。その間本事業に参加した学生さんの中には卒業され、実践現場でこの事業での経験を活かし活躍されていることと思います。また、本事業の最終年度にあたり受講した在学生の方達へのアンケート結果についても、本報告書でご報告がされていると思います。長崎県立大学として本事業に参加した看護栄養学部の学生さんは、将来看護職、栄養専門職として多職種協働しながら在宅がん医療・緩和ケアに携わる専門職としての役割を、学生の時から他の専門分野の学生さん達と共に学習することを期待して参加していました。各大学から参加した多くの学生さんにとってもその経験は将来も専門職間の垣根を低くしてケアの受け手にとってどうあればよいかを共通の目標として討議する信頼関係の土台となると信じています。また本学では国際情報学部情報メディア学科の学生さんが、3大学それぞれに毎年開催する年3回の県民フォーラムのすべてのポスターデザインを担当してくれました。関係職種、一般の皆様への広報の大事な役割を果たしたどのポスターも、フォーラムの趣旨をよく表現した素敵な出来栄えとの評価をいただきました。本支援事業終了後の次年度以降も、規模は縮小しますが3大学の連携共同教育として継続していく予定です。これまで本事業にご協力いただきました患者さん、ご家族の皆様、関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。今後とも大学間連携共同教育活動のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



長崎国際大学薬学部長  
榎原 隆三

「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」は、平成24年度大学間連携共同教育推進事業「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」を推進するため、長崎県内の大学・職能団体・行政およびNPO法人から組織され、節目の5年が経過しました。本事業における大学の責務は、在宅医療と福祉、がん緩和医療と福祉に対する使命感や志を持つ学生を一人でも多く育て地域に送り出したいという点にあります。長崎国際大学の薬学部、健康管理学部、人間社会学部の3学部は、本コンソーシアムの一員として、それぞれの特徴を活かした事業参画および活動を行ってまいりました。平成28年度本コンソーシアムは、「在宅医療概論」、「在宅ケア概論」、「在宅緩和ケア概論」、「地域包括ケア特論」、「在宅がん医療・緩和ケア特論」、「多職種連携早期体験学習」、「在宅がん医療・緩和ケア実習」、を開講し、多くの学生が在宅医療・福祉およびその実践に際して極めて重要な意味を持つ多職種連携に関する啓発活動を講義・実習を通して行うことができました。

さらに、各種専門職および一般市民の方に在宅医療・福祉および緩和ケアについてご理解を深めていただく目的で、「長崎県民フォーラム」を昨年に引き続き開催しました。本年度は、『みんなで支えあおうそれぞれの在宅ケア～在宅がん医療・緩和ケアの推進を目指して～』と題して、①「理学療法士って？～理学療法士がしていること、できること～」、②「心と体を支える作業療法士」、③「言語聴覚士を知ってみよう!!」の3題の講演を長崎国際大学において主催いたしました。多くの市民、学生の方々へ出席していただき、身近になった“地域包括ケア”の諸問題について活発な討論を行うことができました。

おわりになりますが、「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」の活動5年の節目に際して、これまでにご講義・実習に参加していただいた学生諸君（本学からの受講生500名以上）、並びにご協力いただきました関係機関の皆様方、また、県民フォーラムで講演していただいた先生方に心よりお礼申し上げます。本事業は、今後も学生教育を基盤として継続される予定ですので、一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。